



きらめく風

すすんで学ぶ子ども 心ゆたかな子ども 体をきたえる子ども

むごい教育

旭町小学校長 道山 正史

徳川家康が竹千代と呼ばれていた幼少の頃、今川義元のもとで人質として暮らしていた時の話。義元は家来に「竹千代にはむごい教育をせよ」と命じました。そして数日後、家来にちゃんとむごい教育をしているかを尋ねます。家来は、勢い込んで次のように答えました。

「朝は日の出ないうちにたたき起こして水練（水泳）をさせ、食事は三食とも野戦食、昼は剣術や馬術に励ませ、夜は遅くまで学問と休む暇もなく厳しく教育しております。」

これを聞いた義元は大変怒ったそうです。そして次のように言いました。

「それはむごい教育とは言わない。竹千代には贅沢な食事を与え、朝から晩までおいしいものを好きなだけ食べさせよ。寝たいと言ったらいつでもいくらでも寝させてやり、休みたいと言ったら休ませよ。夏は暑くないように涼しくしてやり、冬は寒くないように暖かくしてやれ。本人が望むとおり、何でも与えてやり、好きなことを好きなだけさせて、どんなわがままでも聞いてやれ。」

家来は驚いて「それでは楽で甘い教育ではありませんか。」と尋ねると、さらに義元は次のように答えました。

「そうすれば、たいていの人間は駄目になる。」

今川義元がこれから武士として生きていく竹千代の将来を恐れて、骨抜きの駄目な人間にしようとしたというお話です。つまり、「むごい教育」とは「厳しい教育」ではなく「甘やかすこと」だったわけです。

現代と戦国の時代を同じように比べることはできませんが、苦しいことを経験せず、眼前の楽しさや快適さだけを与えていては、立派な大人になることはできないということです。

もうすぐ夏休み。楽しいことだけでなく、何かに挑戦し、苦しくとも継続することで達成感や充実感を味わえるような経験ができると、2学期に身も心も大きく成長するきっかけになるかもしれません。